和歌山支部　県立博物館「秋の特別展」見学会開催報告





和歌山支部では、和歌山県立博物館秋の特別展「よみがえる軍艦　エルトゥールル号の記憶」の見学会を、同展初日の９月８日に開催しました。

エルトゥールル号は 122 年前の明治 23(1890)年９月、大島樫野崎(和歌山県串本町)沖で座礁し沈没したトルコ軍艦で、地元住人が献身的に乗組員の救助活動にあたったことから、日本とトルコの絆と友好の象徴とされています。

エルトゥールル号が沈んだ現場で、平成 20(2008)年から行われた水中発掘調査の結果、およそ 7,000 点の遺品が引き上げられ、特別展ではこのうちウインチェスター銃、弾丸、釘、コイン、乗組員の食事をまかなった巨大な銅製の調理鍋、菊の紋章入り磁器の破片、将校のボタン・バックル、皿、香水瓶など、950 点余りが展示されています。

支部会員は午前 11 時に同館に集合、１時間にわたりこれら遺品、写真、映像、パネルなどを見学しました。発掘調査、脱塩・保存処理により遺品を復元させた水中考古学の進歩に感心させられました。また、映像コーナーでは、調理鍋などの遺品を引き上げる迫力のあるシーンや発掘の様子、脱塩・保存処理、復元などの活動を水中カメラマンが撮影した映像に見入っていました。

参加者は、隣接の県立近代美術館 2 階のレストラン＆カフェでランチを楽しみながら歓談した後、午後１時 30 分から３時まで「エルトゥールル号の謎をさぐるー水中考古学の立場からー」と題した講演を聴講しました。講師は、トルコのボドルム・カリヤ文化芸術振興財団代表でエルトゥールル号プロジェクト団長を務めるトゥファン・トゥランル氏。

同氏は、100 人余りの来聴者の前で、通訳を伴い分かりやすい英語で、まずオスマン帝国の推移や明治天皇との皇室外交について解説、次いで明治 22(1889)年７月にイスタンブールを出港し、横浜港到着・出港、大島樫野崎沖での座礁・沈没に至るまでのエルトゥールル号の航海の経過、平成 16(2004)年に開始された事前調査や、その後の本格的な発掘調査などについて詳しく講演し、支部会員をはじめ多くの来聴者は熱心に聞き入っていました。

今後の目標として同氏は、「今回の調査は発掘だけが目的ではない。日本とトルコの友好・親善の出発点とし、子どもたちに引き継ぎ、エルトゥールル号事故の遺族・子孫との交流を進めたい」と話していました。

講演の後の質疑応答では、支部会員が「エルトゥールル号は、台風の接近が予想された時期になぜ帰国を急いだのか。乗組員は男性ばかりなのになぜ引き揚げ品に香水瓶があったのか」などと英語で質問する場面もありました。

知っているようで知らないことが多かったエルトゥールル号について、遺品の現物を通して学ぶことができ有意義な行事となりました。この特別展をきっかけに、両国の絆と友好がさらに強固なものになることを願い、特別展見学会のお開きとなりました。

《エルトゥールル号の物語が、平成 25 年度の高校英語教科書（啓林館の「ランドマーク」）の歴史・国際関係のジャンルに登場します。本文の概要は「トルコ軍艦エルトゥールル号の恩返し」で、タイトルは「Friendship over Time（時を超えた友情）」。日・ト友好の歴史が、教科書を通して全国の高校生の心に刻まれることを期待したいものです。

一方で、映画化も進んでいます。日・ト友好 120 周年という節目の 2010 年、この物語を後世に伝えようと史上初の日・ト合作映画プロジェクトが始まりました。脚本は、ＮＨＫ大河ドラマ「天地人」で評価の高い小松江里子氏が担当し、「火天の城「化粧師」「精霊流し」の名匠・田中光敏氏が監督します。25 年 9 月にクランクイン、26 年春に日・ト同時公開の予定。》

（和歌山支部　松本　孝治）